

1. 件名：「浜岡原子力発電所3号機及び4号機の地震等に係る新基準適合性
審査に関する事業者ヒアリング(91)、(124)」

2. 日時：令和2年6月24日（水）10時00分～11時50分

3. 場所：原子力規制庁9階耐震会議室

4. 出席者

原子力規制庁：内藤安全規制調整官、熊谷管理官補佐、田上上席安全審査
官、佐口主任安全審査官、谷主任安全審査官、菅谷技術研
究調査官、南雲係員

中部電力株式会社：原子力本部 原子力土建部 執行役員

中川原子力土建部長 他11名（テレビ会議システムによる出席）

5. 自動文字起こし結果

別紙のとおり

※音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

6. 提出資料

《本年5月7日に受取済み》

- ・浜岡原子力発電所 地震動の顕著な増幅を考慮する地震動評価について
- ・浜岡原子力発電所 地震動の顕著な増幅を考慮する地震動評価について
（補足説明資料①）
- ・浜岡原子力発電所 地震動の顕著な増幅を考慮する地震動評価について
（補足説明資料②（地震動の顕著な増幅を考慮しない地震動評価
について（概要）））
- ・資料構成の変更について

《本年6月9日に受取済み》

- ・浜岡原子力発電所 敷地の地質・地質構造（コメント回答）
- ・浜岡原子力発電所 敷地の地質・地質構造（コメント回答）
（補足説明資料）
- ・前回ヒアリング（2020年6月3日実施）からの修正箇所

時間	自動文字起こし結果
0:00:00	いいですね、均圧室のほうから始めたいと思いますので、よろしくお願いします。
0:00:07	。
0:00:08	よろしくお願いします。中部電力アマンでございますが、冒頭 10 分ぐらいで
0:00:15	6 月 3 日の日にヒアリングいただきました敷地の地質地質構造のコメント回答を資料へと一部修正をさせていただきましたのでその変更点を御説明して事実確認をお願いいたしたいと思います。その後、昨年 12 月 17 日に
0:00:35	揚水しましたネットワークを考慮する顕著な増幅を考慮した地震の評価のほうの 3 回目のヒアリングということでこちらまた
0:00:46	説明が大体 40 分とかそれぐらいになるうかと思っておりますので、そのあとにまた事実確認をお願いしたいと思っておりますそれでは最初に地質のほうでやりますのでよろしくお願いします。
0:01:02	おはようございます。中部電力の森本です。
0:01:05	前回ヒアリングからの変更箇所を御説明させていただきますと時間限られておりますので、主要な部分中心にやらさせていただきます。
0:01:14	資料ですけれども、本編資料、右肩の番号が 1 点教え 180、本日は R-02 という
0:01:23	じゃうものをお願いいたします。
0:01:25	まず前半部分の変更ですが、32 ページからお願いいたします。
0:01:31	とスケッチに作用する力と質の断層との関係のスライドですが、入れる契約断層それから NS 系正断層の成因記載は応力場との対応だけのスラブに記載しておりました。前回唐突感があるとご出席をいただいておりますが、
0:01:49	ご指摘の通りですので、まだ入れる計画弾塑性については今回はこれらの方でしっかり考察しておりますので、このページから記載を削除しております。関連するまとめのスライドについても同様の修正を今回行っております。
0:02:08	それから次 33 ページですが、懇スライドをご覧いただいたときに下がるその堆積ホール年代が資料の中で統一されているのかと恐れさんからもご指摘いただいております、まず事実関係ですけれども、ページ戻っていただきまして 11 ページをお願いします。
0:02:27	こちら敷地の層序表になりますが、表面一番下引き継が探そうというのは前期鮮新世までにたまったものでございます。
0:02:37	それに対しまして 12 ページ、こちらの敷地周辺がそれぞれ表です。
0:02:43	探そうと上位に書いてあります高尾駅岩相境界が中新世の後期ぐらいにあります。

0:02:52	さっきの大阪瓦斯の全身性までというのはどうなってるのかといいますと、敷地に関しては、高尾理事がその左側の部分に少し出っ張ったところがいで／ところがあるかと思えますけれども、
0:03:05	サグチ歴が外の境界があの場合でして、それが先ほど申し上げた前期鮮新世にかかってくるという関係です。
0:03:14	なぜそういうこととしては、敷地が下がるとは前期鮮新世までで周辺の層序表でもそのあたりは標準できているというものでございます。
0:03:23	また中身のほうの 33 ページに戻っていただきまして、
0:03:28	S5 の下側の箱の上の部分ですけれども広域あるところの話を書いております。
0:03:36	相良層が前期推進側にたまったものだということが事実ですので、前期鮮新世以降どうだったかという記載に書いております。
0:03:47	関連いたしまして 150 ページ、
0:03:51	お願いします。
0:03:53	こちら小笠原その補欠年代の話をしているスライドですけれども、箱書きの 4 ポツ目、探そう上部の堆積時期、これは 4 から 5Ma というのは以前から変わっておりませんが、前回先進性と書いていたのは正しく前期鮮新世と今回見直しております。
0:04:12	の前半部分の変更は以上です。
0:04:15	増えて最後意見になりますけれども、ナイトウさんからも重要なポイントとご指摘をいただいておりました歳入物質がやわらかいことに対する考え方とそれからまとめ文書の記載について御説明させていただきます。
0:04:31	沼津される物の話ですけれども 151 ページをお願いします。
0:04:39	1 は総計下から層が固結してから活動していないと前段のほうで評価しておりますけれども、総評価と断層面を押さえればベースは固結していないことをやればいいこととの関係はどうなのかとご出席を受けた追加スライドになります。
0:04:55	こちら前回会合の補足説明資料そのままつけておりますが、上の箱書きの部分でされる物質の成因を考察しております。
0:05:04	そういうとしては、箱書きの下から 2 番目のポツ、
0:05:09	相良層が未固結から半固結時にH断層系の活動によって、僕も取り込んでできたと考えておりますが、Pointエアの総評価の材料が、この一番上の箱書きごめんなさい、一番上の太字がカッコの部分。
0:05:24	路頭ブロック試料薄片の観察結果、それから、
0:05:28	いわゆる同まだ分析鉱物分析結果でありまして、
0:05:33	Codeではないと、断層ナカタやわらかいではないということでございます。

0:05:38	そういった中で裁量物だけなんでやわらかいのかというの下側の部分で考察しております。
0:05:46	理由としては1断層が動くことでいたん属性されればリセットされたということと、リセットされた後に、周辺の母岩から排水される間隙水の水みちになってしまって、国家が進まなかったんだらうというふうに考えております。
0:06:01	今回このスライドの1枚追加させていただきました。
0:06:06	最後ですけれどもまとめの文書の記載についてです。最後に146ページをお願いします。
0:06:15	まとめの記載につきましては、当社の評価が明確になるように見直しております。
0:06:22	まずはそこが契機が一番上の部分ですけれども、括弧して茅ヶ崎の特徴としておりますが、その部分は従来我々がH断層系をどう評価してきたかというのを記載しております。
0:06:35	この茅ヶ崎の特徴が一番下の段落になりますけれども、一番先へは分布形態性状の類似性金星時代の同時性及び分布範囲の局所性が認められますので、同一の地質学的場で形成された同じ系列に属する一連の断層群と、
0:06:52	評価しております。これは従来の標準ですけれども、これを今回言い換えたのは、すなわち以降になります。
0:07:00	すなわちすべての断層が一体として活動し、各断層の最新活動が同時期にその時期というのは相良層が未固結から半固結の時代のある位置、
0:07:10	やはり断層群というふうに考えているというものです。これが従来示していた調査結果から、すでにいえると考えていること。
0:07:20	それから人が今回追加した検討の結果になりまして、H断層系に属する断層の活動時期としては約200万年以上前、
0:07:31	だということと、一番先の活動の特徴として、同時に動く海外でもよく知られております海のほうですと同様な断層群としてすべての断層が一体として活動する断層群であるというふうにしていきます。
0:07:47	この評価は活動が同時性という観点で上のほうに書いてあるH断層系とH断層系の特徴に基づく従来の従来からの評価と合致しているというものです。
0:08:00	一番下にありますが、以上踏まえましてすべての断層が一体として活動し、各断層の最新活動が同時期でその時期というのは200万年以上前の歩い地域である断層という評価にしております。
0:08:15	ぜひ従来通りの話で言っていたことに対して、今回の追加したことで、補強されたということがわかるように記載を見直しています。

0:08:25	すみません 248 ページのフローにつきましてもこのロジックがわかるように見直しております。右側の濃い青箱の二つの部分、これが従来の評価結果からいえると考えている内容、
0:08:41	同一の地質学的場で云々というのは、すべての断層が一体として活動し同じ時期に今の形になったんだということです。その評価に対して、下のコヤマダの箱今回道民のという知見を踏まえて、H断層系の形態を中心に見てやっても、
0:08:58	活動の同時性という観点で従来の評価と違ってしているというものです。
0:09:03	以上がまとめたところの修正点でして、関連スライドも見直しを行っております。
0:09:11	その変更点の説明は以上です。姑息説明資料も同様の箇所の修正を行っております。
0:09:18	外帯対外ったコメントの内容につきましても反映しておりますので、詳細につきましては、
0:09:25	今回示させていただいた資料に前回ヒアリングからの修正箇所というA4 裏表のリストをつけておりますので、そちらの方で御確認いただければと思います。
0:09:37	説明以上です。
0:09:43	規制庁スガヤです。ありがとうございました。
0:09:51	ナカタということもあって、
0:09:54	負担思ったんだけど。
0:09:59	はい。
0:09:59	やっぱり、
0:10:05	規制庁のサグチですけども、ちょっと今日きょうのご説明の中で 1 点だけ確認をさせていただきたいんですけど、151 ページで採泥放出についての
0:10:18	御説明ちょっと変えました、変えました。以前のものをそのまま持ってきているということだったんですけど、その別途説明の途中でモリモトさんからとこ固結やらかいとかがたい云々の話ではなくという。
0:10:36	ちょっと発言をされたと思ったんですけど、それともう前の 150 ページの関係ってどんな関係になってるんでちょっと教えていただけますでしょうか。
0:10:52	はい、中部電力のモリモトをですけども、まずは 151 ページの
0:11:02	探そう後日してからいつ警防いけないよと言ってるのは何をもって言ってるかという、
0:11:09	箱書きの上のところに、このは、
0:11:14	これに基づく評価だというふうに書いてますけど、こういった

0:11:18	露頭が固結してるからってということに基づいて評価しているわけではないということですね、それに対しまして 150 ページというのは、
0:11:31	とはいうもののH断層系の裁量物質の部分というのは、しっかりこういった浅いループ室以外の部分というのはちゃんと固結しているということは確認しておりますので、150 ページじゃないわなにを持っていったかという、その掛川層群、
0:11:48	もう十分探すの剰余金がそこも十分固結している状況を踏まえると、
0:11:54	それから送迎ま今のEHI発想の周りの探そうそれからH断層のその落ち着いた部分、
0:12:03	いや、断層系が
0:12:10	ファックス
0:12:14	ソケツ、ごめんなさい、断層系が
0:12:27	すみません、正常にchanceOKが固結して以降活動しないことは、
0:12:37	それが言っているということでございます。
0:12:42	設計でこぼごめんなさいちょっと途中音声途切れたみたいなんですけどそれは何か発言されてましたそれとも単純にそのすみません私のとりあえずです、すみません。
0:13:01	わかりました。ちょっと詳しいところはちょっと今、もう1回、
0:13:06	ちょっとその関係特に左右物質は何か補欠とか固結度みたいなものあんまり関係ないんだけど、その周りのところの
0:13:17	ところを見ると固結度みたいな関係あって、150 ページみたいな感じで。
0:13:24	増えもんなんですよと言っているというように今聞こえたんですけど。
0:13:29	ちょっともうちょっと、すみません、詳しくお願いできますでしょうか。
0:13:38	ってということ電力なかったりすべきモリモトの方が言われていた通りですね、120 ページ 151 ページで何か連続したところで書かれても同じ固結お話をしている、案であるように見えるんですけど、150 ページは魚とそのもののポケットの話をしているのだと
0:13:58	ページは、滞留物質触ってくだ早期の再物質の保険の話をしておりますので、徹夜の
0:14:05	アイレックスとか補欠近いこの方固まってない室でのままであるということになりますから、iPad話なんですけれど、周囲の探そうというものとしていてということで、そういう上も 150 と 151 ページの関係と、そういう関係でございます。
0:14:25	わかりました。
0:14:28	はい。

0:14:30	ご説明の内容は、御説明している内容はわかったんですけど、そういうことは歳入物質はあまり固結
0:14:41	どうですか。特に、あと探そうとかも
0:14:45	合計としている年来とあんまり関係ないようにも今聞こえたんですけど。
0:14:54	中部電力ナカタです。150 ページに書いてありますように、一応、もう下がると。すいません(10)ページにあるようにさ解析してから状に固結が決まっているということに対して、110 ページにありますように、ITbookは一旦活動によって、
0:15:11	補欠が一っと始まった魚層がまたリリースされてしまったということ言ってるので。缶
0:15:24	上のグラフでさせて 110 ページのグラフで説明しているものではない。
0:15:29	一般の道の駅の細部っていうのは我々も固結しているという話と、評価はしておりませんので、
0:15:35	その沖合の保管及びアマノ断層面に挟まれた昔痛恨答えと言っていました。流動変形が見られるところ甘酒目的としているということで少し評価が 110 ページになります。
0:15:51	はい、すいませんちょっとさらにえっと今ちょっとナカタさん裁量物質固結していないという、ちょっと発言できたんですけど、以前なんか裁量室も含めて固結しているというような
0:16:03	説明を受けてたと思うんですけど、多分何か向こうにも何か書いてたよね。
0:16:08	時価したんですけど、今はそうじゃないっていうことでよろしいですか。
0:16:16	モリモトですけども、ちょっとごめんなさい。まずセレサ固結していないっていうかですねあの際物質のところ、だけやわらかいということですので、それが
0:16:31	ほかのそうだったり、要は未固結度に比べてどうだという話は特にしていなくて、やはりその周辺の母岩に対してやわらかいというのが一つで、以前
0:16:44	茅ヶ崎ちゃんと固結してるんだということを御説明させていただいたのは何かといいますと、以前こん交代というたいわゆる流動変形となっているところでそこはあの現地調査でもご覧いただいたかと思えますけれども、周辺の母岩と同様に
0:17:00	ちゃんと形になっていることは確認しているというものです。
0:17:09	はい。
0:17:11	はい、どうぞ。とりあえずや御説明はわかりましたので一旦ちょっと私からは以上です。
0:17:20	なるほど。

0:17:21	すみません。
0:17:27	はい。
0:17:30	僕によりますでやっていいんじゃないんです。
0:17:35	規制庁のスガヤです。
0:17:37	私のほうからちょっと2点確認してくださいってところだけちょっとお伝えしておきます。150本タニ150ページのところで、
0:17:50	相良層が固結した時代に考察時代に関する考察ってところで、真ん中に写真2枚当期左に層序表が載ってるんですけど、何かちょっとぼやけて
0:18:03	いうようなので、ほかのページは層序表とかちゃんと改造でよく出てたので、そこはちょっと確認してください。
0:18:13	あと、
0:18:20	補足のほうで、
0:18:24	補足の20ページ。
0:18:34	補足の20ページのところに反射法地震探査とボーリング調査結果の関係っていう砂岩泥岩比率を一覧に側線うちらに乗せてくださってるんですけども、
0:18:47	これが本体のほうに同じものが持ってるんですけども、
0:18:52	今、補足の20ページ見ていただいて2P測線ちょっと見ていただきたいんですけども、2P測線に左側にNo.5っていうボーリング孔があるんですね。
0:19:04	それを見ると、
0:19:06	黄色の線が引っ張ってあって、これは
0:19:14	あの火山灰の計6って書いてあるんですけども、本体のページのほうに行くとな計7になってるんで、ここはどっちが正しいのかっていうのはちょっと確認しておいていただければと思います。
0:19:33	中部電力の森本です。総評の過失の件、それから、
0:19:40	反射断面に入っている階層の名称の確認承知いたしましたので、介護まで直させていただきます。
0:20:11	サグチです。すみませんちょっとくどいようなんですけどもってちょっと本編、これはあくまでも教えていただきたいんですけど150ページで、
0:20:20	これあくまでも固結度のイメージということなんですけども、これ定性的には多分こんな感じなんだろうということなんですけど、例えばこれを定量的に、
0:20:32	何か評価しても、こういう傾向はあるのかどうかって言う例えばその今の現在の一番右端やっばりますよね。
0:20:39	それ見ると、当然ここに書かれているように、掛川総務とか、そういったものっていうのは探そう分より当然固結は固結度が低いと。

0:20:53	ということで、美瑛以前多分固結どうか云々というのも、
0:20:59	グラフとかでやられてたと思うんですけど、おんなじような評価をしたところには、
0:21:05	今の探そうとか 1 断層よりも固結度が低いという。
0:21:12	3 ページから 100、163 ページで高度の頻度分布みたいなところですよ。
0:21:17	そこそこで、例えばこの 20 より下のところ、
0:21:23	に、例えば
0:21:26	欠けがそう。
0:21:28	のCodeみたいなものが分布をされると。
0:21:32	という
0:21:34	理解でいいですかね。そんな単純なものじゃないんでしょうかね、ちょっと教えてください。
0:21:42	中部電力の方で所々々定量的良いなものについてたらしいですとちょっとすいません今、瀧川層群については持ち合わせているデータをためた分、Iwataそういった感じになるんだろうなというふうに思っておりますけれど、残念ながら今ちょっと並行して、定量的なデータを取得するように準備しておりますので、
0:22:02	あと 2 回会合で言っていただければ時次回の会合までにはデータをオペリスクできるページ見させていただきたいと思います。
0:22:12	はい、わかりました。一応なんか多分定量的によってもその傾向にあるんだろうという。
0:22:17	予想はされているってということですね、ちょっとすいませんあの後、ちょっと資料全体を通してザッと見た感じで、これはもうチェックして最終的に会合までに終了集中性をするなりをしていただきたいと思いますんですけど。
0:22:35	断層の分布図を切り切られの関係とか、そういうところで、
0:22:41	以前もちょっと
0:22:44	言ったかもしれないんですけど。
0:22:47	3 ページ、7 ページでもないけど、
0:22:50	いっぱい広がってですね、例えばじゃあ今後いろんなものが、
0:22:54	EW系の方なのか、達成NS系部門とかっていうのはわからないというふうな結構そういうことが出そう思うところで判断に使われてないような量が
0:23:07	多分あるんですよ。
0:23:09	なので、増その凡例動員色にするのか、乗せないんですけど、例えば凡例に実際の図で使っているところでちょっと加えるとか、そんな感じでドーム部運河も

0:23:24	岩相になっているのかっていうのはちゃんとわかるようにはしていただきたいと思います。
0:23:31	ちょっとまずとりあえずそんなとこですけど。
0:23:39	モリモトですけども先ほどサグチさんの御指摘いただいた例えば 50。
0:23:43	51 ページ。
0:23:48	はいそうです。高高駅の波とおっしゃっているようそうですね、この当断層分布図に、今の凝灰岩層も色つけて入っているとか、そういうところが少しわかりにくいという。
0:24:04	御指摘でしょうか。そうなんですけど、多分違ういろんなやつが、ごめんなさい、細かいことで、20。
0:24:12	7 ページとかですか。
0:24:17	アからオ緑ダイダイ廃炉以外の色って、
0:24:22	ないですかねっていうだけの話ですけど。
0:24:32	はい、車両ページと同じG図かと思いますので、ちょっとあの確認させて替かと思えますけれども、
0:24:42	おそらく凝灰岩層、
0:24:44	が、ちょっとスケールの関係でそういうふうに見えるのかなという気もしますので、またちょっと誤解がないように修正させていただきます。
0:24:53	はい、すいません。ちょっと細かいことなんですけど、一応チェックをいただければと思いますが、ほぼ
0:25:00	これもやっぱりごめんなさい、細かいことなんですけど、幾つか切り切れ関係の関係を
0:25:07	見ている図があったと思うんですけど。
0:25:13	何ページか。
0:25:14	ごめんなさい。すぐ出てこない、50 ページとかでしょうかね。
0:25:20	そもそもさ 50 ページは、もうちょっと手法
0:25:23	57 ページ。
0:25:31	57 ページ以降で、
0:25:35	それぞれあるんですよ。
0:25:38	各系統断層間の関係で、それで上の箱書きに書いてあることと、この右下のかと言えば図の中に引き出し線で丸つけて引き出しがあるんですけど、それ合っていないようなものが何か幾つか
0:25:54	なんですよ。実は上の箱書きに分かれているんだけど、そこに対応するようなものがこの図の中に示されていないのかっていうのが多分この 57 ページ以降であったと思うので、ちょっとそこはチェックしていただいでですね。

0:26:09	足りないような部分。
0:26:12	例えば 57 ページだとかっていうのは、
0:26:21	これはいいのかな。
0:26:24	だから、要は止まっている。
0:26:28	超えていない超えていないか、超えていない。
0:26:36	EW系正断層超えては、連続性部で多分この 1 項で 57 ページの一番なんていうんですかね、青と青線の一番上の部分だと思うんですけど。
0:26:45	そういうところが多分示されていないと思うんで、ちょっと括弧書き等、
0:26:51	ところが、対応がちゃんとされてるかっていうところはちょっとチェックしていただいてですね、必要であればちょっと加えていただきたいと思います。
0:27:03	モリモトです。承知いたしました用の箱書きの記載が下の図の
0:27:10	切らせんとしてないよという
0:27:13	議会で、
0:27:15	いいでしょうか。その通りなので、そういうところがあったらちょっとちゃんと加えてくださいというふうにチェックして周知もハウス改善或いはいたします。
0:27:29	はい。
0:27:33	規制庁スガヤです。
0:27:34	すいませんちょっと私一点あの反射法地震探査のところのコメントのところちょっと見方を確認させていただきたいんですけれども、本編の 160。
0:27:49	7 ですかね。ごめんなさい、ページ数がわかるっていう、
0:27:53	172 ですね、170。
0:27:59	本当の 172 で地下構造調査結果、反射法地震探査 1P測線たって、この後に、各測線ずーっと示してくださってますけど、箱書きのところにいろいろ特徴をちゃんと整理してくださっています。
0:28:15	箱書きの一番下のところにまた浅部から深部にかけて反射面の傾斜が緩くなっていく傾向が見られるっていうのが幾つかの測線でやっぱり書いてあるんですけれども、この例えば 1P測線のところで言うと、この特徴っていうのはどこのことをおっしゃっ
0:28:34	いるのかっていうのをちょっとCMTの番号を横軸に書いてあって深さが縦軸になってますので、この辺からこの辺にかけていいかということ整理いただきたいんですけれども、
0:28:50	例えば、すみません、中部電力ナカタです。例えばですね、今おっしゃった 172 ページでいくとトーションとの 150 名たったらDMP100
0:29:02	20 ぐらいのところって意外と休憩室出してるんだとスターのほうに行くという平米行っているという話ですとか、

0:29:14	ちょっとこれそういったところが黒線立つかあったはずなんですが、具体的に各測定器いいますか。
0:29:27	結果が、
0:29:29	もう1回ちょっと1P測線のところで言うと、投資MPの番号が120のところ、深さが150くらいのところ、
0:29:42	そうだなと、ナカタaナカタです。1例としてそういったところをお示しましたけど、赤いところで、この辺り休憩魚っていうのは、ほかにも何点かスキップしてたんですが、例えばその、あの結果を資料か手元にないので、
0:29:57	検討のところをですねちょっとここで話したところですけど。
0:30:03	大体その辺りホットで以外にも音が浅いところトピックを
0:30:09	皆が見ても同じように100浅いところでCAPの
0:30:13	200ぐらいのところに対してもっと深いところに行くと、数字を行っていくなんていうかですね。
0:30:21	はい。で、例えばあと2P測線の場合だとどうなります。
0:30:26	2P測線の場合も、箱書きの下から二つ目のポツのところ、浅部から深部にかけてと同じように書いてあるんですけど。
0:30:35	はい。
0:30:36	例えばこの場合だとどこになりますかね。
0:30:40	ナカムラとここはなかなか微妙であるんですけど、例えばCCME-160あたりの
0:30:50	100メーターあたりを見ているからずっと下見ていただくと、ずっと下に行くに従って250メーターあたりからちょっと緩くなってるかなという感じがしたりですね。
0:31:07	規制庁スガヤです。はい。
0:31:09	この辺ですということで、はい。そうしました。
0:31:26	最後のある01測線ということで、事務委託。
0:31:32	150から150ぐらいのところを上からずっと見ていくと。
0:31:37	やっぱり100メーターあたりまではある程度傾斜があるのがおりより倍とか、ちょっと続いて行っている部分もあるかなという
0:31:47	そんな感じだと思う。
0:31:51	結局、
0:32:13	はい。
0:33:30	はい、ではよろしく願いいたします。引き続き敷地はここまでとして地震動のほうをお願いいたします。
0:33:38	では、地震動のほうの説明に入ります大体40分ぐらいだと思います。

0:33:46	大体 40 分ぐらいだと思いますので、
0:33:52	全体を説明させますのでよろしくお願いします。
0:33:56	はい。
0:34:01	はい。
0:34:04	中部電力の石川です。よろしくお願いいたします。
0:34:09	まず資料構成のほう変更しておりますので、4 名来期の資料で説明をしていきます。
0:34:19	12 月時点の資料構成が左側が今回資料構成が右側になっております。
0:34:26	もともとは本資料の本資料と補足説明資料①②③とありまして、本資料は一緒に地震動の顕著な増幅の地震動評価への反映で、
0:34:38	234 社が各地震タイプのをどう考慮しない評価と考慮する評価、5 章でまとめとしておりましたが、
0:34:46	これまでのヒアリングで増加の資料に増吹き出しが入っているとかも違和感があるといったコメントがありましたので、今回の本資料はもともとの本資料の中で示す増幅ありの各負荷に関係するところだけを抜き出して校正したものとしております。
0:35:03	ただ増幅なしも横目で見られるように、もともとの本資料の緑で示す増幅なしだけを抜き出して映像吹き出し概要版として補足説明資料②再構成しております。
0:35:17	また、また、もともとの補足説明資料を①②③は、震源モデル図とかパラメータ一評価結果の詳細のデータを増加割り出し一緒に地震タイプごとにまとめておりましたが、
0:35:32	今回補足説明資料①はもともとの資料の青で示す、それぞれの増加にだけを抜き出して再構成し、
0:35:40	江府なしの詳細については過去資料参照という形にしております。
0:35:46	広さの変更については以上になります。
0:35:51	それでは本資料のほうを説明しています。
0:35:55	右肩の番号で言うとH4 のCA1 炉ピアノあるゼロになります。
0:36:02	前回説明から半年経過しておりますので連帯御説明流して説明したいと思います。
0:36:07	本資料の 1 ページをお願いいたします。
0:36:12	1 ページに本本日の報告内容を示しております。
0:36:16	まずこれまでに地震観測をサポート調査結果に基づいて、敷地における地震動の増幅特性を分析して報告してありまして、

0:36:26	どころ周辺では二、三十時間 70N70Eで増幅の心臓検診の増幅が見られてそのサトウの方向では見られないことを
0:36:37	1 から 4 号炉周辺では、それ以上の方向で見られないということを説明しております。
0:36:43	人が下部に行きまして、これらの増幅特性を踏まえて、地震動の顕著な増幅を考慮しない地震動評価等を考慮する地震動評価を実施することとして、
0:36:53	マイク 32 回の会合では説明しましたが 1 から 4 号炉周辺を大地震でも検知の増幅を考慮しない領域と 5 号炉周辺の増幅を考慮する領域を設定します。
0:37:05	地震動の顕著な増幅を考慮しない地震動評価は二つの図に示す通り敷地全体を対象として、
0:37:12	考慮する地震動評価はどこを考慮する領域を対象として行いますので映像考慮する領域赤で示して常勤をにつきましてはどう考慮しない地震動評価等除く考慮する地震動評価の両方を実施するという事です。
0:37:29	本日の報告では各地震タイプ 1 の内容を整理しておりますので、地震保険ちゃんと考慮する地震動評価報告していきます。
0:37:38	2 ページには 532 回の会合で説明した増考慮しない領域と考慮する領域をされている青と赤で示しております。
0:37:48	3 ページには、これまでの報告事項等本日の報告事項との関係を示しております。
0:37:54	ウェイ側は緑で示す敷地における地震動ぞ特性等を青で示す地震動の顕著な増幅を考慮しない地震動評価については、これまでご審議いただいております。
0:38:06	これ青で示す映像を考慮しない地震動評価のうち、火曜日から地震の応答スペクトル法による地震動評価結果の山につきましては、以前説明しておりますが補足説明資料②の 74 ページに携帯しております。
0:38:22	本日詳細に説明しませんが審査会合では誤りの内容について説明させていただく予定です。
0:38:29	戻りまして、赤で示す地震動の顕著な増幅を考慮する地震動評価のうち、通って耐震については 532 回までの会合で審議いただいておりますので、
0:38:41	本資料では主に内陸地殻内地震とプレート間地震について説明をします。
0:38:47	ただし通って耐震についてもほかにかと横並びで見えて追加した資料ありますので、それについては簡単に説明をいたします。
0:38:57	1 ページ飛びまして、5 ページにフォン資料の目次を示します。
0:39:02	まず一章で地震動の顕著な増幅を地震動評価の範囲について説明します溢水で認証から 34 章で一生を踏まえた各地震タイプの地震動の顕著な増幅を考慮する地震動評価について説明し、5 章でまとめといたします。

0:39:18	それでは 6 ページから一章について順に説明をしています。
0:39:25	7 ページからまず敷地における地震動の増幅特性について資料を再掲しております。
0:39:32	4 ページは検層含められタニ研究ですよね、地震の方針のフーリエスペクトルで 5 号炉周辺では周期 0.2 から 0.5 秒付近の筐体込み増幅が見られていると。
0:39:43	ものです。
0:39:45	8 ページは同じ地震の応答スペクトルで映像は 0.5 秒以下の短周期側に見られております。
0:39:53	液位ページは観測記録に基づいて号炉周辺の観測特定の方向でのみ増幅が見られているということを示している資料の再掲です。
0:40:03	10 ページは観測記録の分析等三次元解析の件、検討から自身は入射角が鉛直下方に近づくほど保存が見られない傾向があることを示した資料の再掲になります。
0:40:17	次に 11 ページからは、これらの増幅特性を踏まえた地震動の顕著な増幅を地震動評価への反映方法について再掲しております。
0:40:25	11 ページ、断層モデル法による評価については堅調な増幅は特定の方向にのみいられることから増幅を考慮する評価では、これらを考慮できる断層モデルを重視すると。
0:40:38	ます。そして下の図に示すように、統計的グリーン関数法において算定する解放基盤表面のグループ関数に増幅係数を乗じることで増幅を地震動評価に反映します。
0:40:51	ここで生じる増幅係数を 12 ページに示しております。
0:40:58	° 形成については 194 回の会合で説明したと思っております。
0:41:03	13 ページは断層モデル法の説明について、いずれ示します。
0:41:09	14 ページは応答スペクトル法に基づく評価の増場所の説明です。
0:41:15	遺族の範囲に対しては、層厚考慮する場合を考慮しない場合の震源モデルについて、断層モデル法による評価を行ってそれらの結果による平均応答スペクトルの比を算出し、どう考慮しない応答スペクトル比に評価結果を乗じることで、
0:41:32	評価を行います。
0:41:36	1 ページで 16 ページからは地震動の顕著な増幅を考慮する地震動評価の方針を示します。
0:41:43	以降では家族を考慮する場合は増幅ありいおれしない場合はどうらしい地震動の顕著な増幅が見られるCは到来方向を増幅方向と略して説明させていただきます。

0:41:57	先ほど説明した通り、溝仮の評価は 2009 年駿河湾の地震の審議が到来方向で増幅が見られる 5 号炉周辺の増幅ありの領域を対象とします。
0:42:08	みずからの評価にあたっては、増幅なしの評価の内容を踏まえるとともに、増幅が特定の方向に見られることと、
0:42:16	だから地震タイプの評価の特徴との関係を考慮してどう管理の検討地震の選定等の震源モデルの設定を行います。
0:42:27	人の保険に箱書きに行きまして、増加の検討地震の選定の方針をまず示します。
0:42:34	内陸地殻内地震、プレート間地震については、断層位置が詳細な上載特定されているという特徴を踏まえての吹き出しの検討地震に 1 位震源断層が増幅方向について自信を
0:42:47	増幅代わりに健聴指針として選定します。
0:42:51	通って耐震については、断層位置が詳細な調査でも特定できないという特徴を踏まえて増幅なしの検討用地震の震源断層を増幅方向の敷地に近い位置に移動させて増加の検討地震として選定します。
0:43:06	選定した増幅会の検討地震についてはほかの地震の影響は小さいことを禁止します。
0:43:12	その下に増加の震源モデルの設定の方針を示します。
0:43:17	遺族会の地震動評価においては検討用地震の各震源モデルは基本的には増幅なしの大地震と評価における震源モデルと同じとします。
0:43:27	ただし、断層位置や余震と成績アスペリティの位置が誘発的な不確かさに分類される場合は、続報踏まえて、より保守的な評価になるような応答出そう一夜は強震動生成域アスペリティの一部を設定します。
0:43:43	さらにその下に増幅を考慮する方針と成績アスペリティの小断層の設定について示します。
0:43:51	こちら前回から追加しているところにありますけども、増幅が族方向にある強震動生成域アスペリティの小断層に考慮します。
0:43:59	その際に敷地における地震動の増幅特性の分析の結果、新入射角が鉛直下方に尽くす近づく敷地近傍は増幅は見られない傾向があるものを地震動に与える影響が大きいことを重視し、
0:44:15	保守的な評価となるように、敷地近傍含めて増幅方向にある炉心と生成気圧の小断層に増幅を考慮するとともに、敷地近傍において映像考慮する小断層が範囲が増幅方向よりも広い設定とします。
0:44:36	17 ページには、各地震タイプの増幅ありの検討しての選定を行って、方針に基づく選定結果を下段に示しております。

0:44:44	なるべく地殻内地震について増幅なしの検討用地震とした御前崎海脚制度断層タニによる地震等への 17 断層による地震のうち、儘田海脚西縁の断層タニによる地震は震源断層が増幅方向に位置することを踏まえて増幅ありの検討用地震として選定しました。
0:45:03	インプレス監事については増幅なしの検討地震とした内閣府モデルの最大クラスの地震、こちらが震源断層が増幅方向にすることを踏まえて増幅ありの検討指針としても選定しました。
0:45:16	それから予定耐震については増幅なしの検討地震とした敷地下方の想定スラブ内地震の震源断層をずっと方向に移動させて増幅なしの検討用地震として選定しました。
0:45:29	このように選定した増幅なし増幅ありの検討しについては後程説明するように、ほかの地震の影響は小さいことを確認しております。
0:45:38	18 ページには今説明した内容を表形式で示しております。
0:45:45	19 ページには補正に基づく増幅ありの検討用の震源モデルの設定について、下段に示しております。
0:45:52	内陸地殻内地震については断層位置は認識論的な不確かさアスペリティの位置は偶発的な不確かさに分類されます。これを踏まえて増加の市各震源モデルは増幅なしの各震源モデルにおいて、敷地近傍ナースPTが増幅方向に位置しているため、
0:46:10	これと同じとし、Asperityの一部に造構して評価を行います。
0:46:15	計画については断層位置が認識論的な不確かさ赤深度成績の位置は、基本的にはアップをして認識論的な不確かさでしたが、
0:46:24	偶発的な不確かさ要素も有しております。これを踏まえて、A増幅から基本震源モデルは増幅なしの基本震源モデルと同じとし、続報工認する強震動生成域の一部に遺族を考慮して評価します。
0:46:39	どっかありの強震動生成寄与率の不確かさを考慮した震源モデルは強震動生成域の位置が誘発的な不確かさの様子も有していることを踏まえ、売り保守的な評価となるよう、敷地近傍含めて増幅方向にかけて強振動生成する震源モデルを新たに設定して評価を行います。
0:46:58	通って耐震については、断層位置、強震動生成域は偶発的な不確かさに分類されます。これを踏まえて増加の各震源モデルはやっぱり保守的な評価となるよう増幅なしの各震源モデルの震源断層を移動させて、
0:47:14	震源規模を含めてぞかけて続方向にかけて強振動生成域を震源モデルを新たに設定し評価を行うこととします。
0:47:26	20 ページにははこれまでに説明した増幅管理の各震源モデルの設定の共通となる考え方をフローで示しております。

0:47:34	増幅なしのモデルの断層位置、強震動生成スピリット 1 に対して、不確かさの分類で増幅ありのモデルを設定するということを示しておりまして、黄色が認識論的な不確かさ緑が偶発的な不確かさでなんていうのが表しております。
0:47:50	この色の凡例については以降の資料でも共通としております。
0:47:55	21 ページには破格地震タイプの震源モデルの設定について、これまで目を表形式で示しております。
0:48:04	22 ページから 24 ページには地震タイプごとに検討用地震の選定徒歩震源モデルの設定のフローを示しております。
0:48:13	説明重複しますので割愛させていただきます。
0:48:17	飛んで 25 ページをお願いいたします。
0:48:24	25 ページには増幅を考慮する強震動生成気圧PPの小断層の設定について再掲をしております、
0:48:32	各地震タイプの強震動生成域アスペリティの位置の不確かさを考慮したモデルを横並びで示しております。
0:48:40	26 ページには、これ以降の資料に要点がわかるように、遺族を考慮する場合には関わる追加説明項目を表でまとめて示しております。
0:48:50	各項目について中央の列画像考慮しない場合と同じ説明項目で右の列がどう考慮する場合に係る説明を追加させております。
0:49:07	続いて、27 ページから各地震タイプの説明となります。
0:49:12	遺族の人同じものにつきましては続出して同じ意図だけ説明させていただき、詳細は割愛しますので少しご了承ください。
0:49:20	まず増幅管理の内陸地殻内地震の評価について説明をしていきます。
0:49:25	28 ページに全体像再掲しております。
0:49:28	次のページから順に検討地震の選定震源モデルの設定で地震動評価について設定をしています。
0:49:37	29 ページ遺族会の検討地震の選定です。先ほど説明しましたと通り、オレンジの地震動の顕著な増幅が見られる社到来方向に震源断層がある御前崎海脚西縁の断層他による地震を送付代わりに検討地震としての選定をしております。
0:49:56	この代表性を、30 ページで示します。
0:49:59	右下の活断層の位置図に示す通り、遺族方向には内陸地殻内地震の震源として考慮する活断層として今選定した思い出改革整備の断層調査による地質断層体のほか、S波回分の整備の断層対等補正波海盆内東部の断層対があります。

0:50:19	左に示すという、これらの活断層による地震の応答スペクトルの比較によると、海脚西縁の断層タニによる地震の応答スペクトルは、その他二つの二つに比べて全周期にわたって大きくなっており、
0:50:32	増幅が見られる周期体NTTで2から0.5km程度において、2か3倍以上大きくなっております。
0:50:40	主な核種の断層タニ〇地震については応答スペクトルは敷地から離れた位置の二つの地震に比べて十分大きいことアスペリティは敷地に近い位置に選定設定しており、増幅方向に移らアスペリティに造構考慮することから、
0:50:55	お2人の評価においても重い前回曲線の断層タニによる地震で検討しても代表できると考えており、考えられます。
0:51:12	続いて31ページからはどう変わるの基本震源モデルの設定についてです。
0:51:18	印象と説明した通り、断層位置は認識論的不確かさアスペリティの位置は的な不確かさに分類されることを踏まえて、
0:51:26	増幅代わりの基本震源モデルは、左に示す増幅なしの基本震源モデルにおいて、敷地に近い位置に配置した滑りが増幅方向に位置しているため、これと同じとし、右に示すように、そのアスペリティの一部に造構考慮して評価を行います。
0:51:43	32ページには増加の震源モデルの設定方針と震源断層パラメータを示しますが、こちら増幅なしとなっております。
0:51:53	35ページでは、アスペリティの深さの妥当性の確認をしております。
0:51:59	増加の基本震源モデルはアスペリティ上端深さ等地震発生層上端深さである5kmとして設定しております。これに対して、この深さを変更したケース①②は設定して比較して基本震源モデルは等価震源距離が最も短く増幅を考慮する、小断層の範囲
0:52:18	小断層の数が最も大きくなることを確認しております。
0:52:24	1ページ飛んで続け37ページからは不確かさを考慮した侵入モデルの設定についてです。
0:52:31	みずからの評価において考慮する。
0:52:35	不確かさの考慮の考え方は増幅なしの評価と同じであり、増幅なしと同様の構成内容で71ページはフローを安住安心なページはフローを
0:52:48	38ページにはモデル図、
0:52:54	39ページには不確かさの重畳の考え方。
0:52:58	40ページに不確かさ考慮のまとめを表形式で示します。
0:53:05	41ページには、不確かさを考慮した震源モデルの応答増幅を考慮したアスペリティの小断層の設定について示しますが、こちら増幅ありの基本震源モデルの設定とどうなっています。

0:53:18	その保守性について 42 ページに示します。
0:53:27	こちら増幅管理の基本震源モデルと同様に保守的な設定となっております。
0:53:43	ちょっとページを飛ばしておりましたので、
0:53:49	写真で 33 ページをお願いいたします。
0:53:57	すみません。
0:54:02	33 ページには基本震源モデルの増幅効率のアスペリティの小断層の設定について示しております。
0:54:10	どっかの基本震源モデルについては家族はそういう方向にあるアスペリティの小断層に考慮します。
0:54:17	具体的には一緒に説明した通り、敷地における地震動の増幅特性の分析の結果、新融資枠が鉛直下方に近づく敷地近傍は、地震動の顕著な増幅は見られない傾向があるものを地震時の
0:54:33	頻度に与える影響が大きいことを重視して保守的な評価となるよう、敷地から北東方向にあるアスペリティの小断層のすべてに対し、地震動の顕著な増幅を考慮することにより、敷地近傍含めて増幅方向にあるアスペリティの小断層に地震動の顕著な増幅するとともに、
0:54:52	敷地近傍において増幅を考慮する小断層の範囲が増幅方向より広い設定とします。この設定の保守性を次のページに示しております。
0:55:04	34 ページですが、明日にいい示セグラフは横軸が地震は到来方向で増幅方向であるN30EからN70Eをオレンジのハッチングで示しております。
0:55:17	そして赤い縦線は増コールするアスペリティの小断層のうち、最もを外側にある小断層の敷地からの方向を示しており、その間にあるアスペリティの小断層すべてに寄贈考慮しているということになります。
0:55:31	増幅管理の基本震源モデルの増国公立+PTの小断層の範囲はオレンジで示す増加方向より広く保守的な設計となっております。
0:55:44	そしてすみません戻っていただきまして 42 ページが不確かさをこうした震源モデルの保守小断層の設定の保守性の説明になります。
0:55:55	今説明したと思うと同じように映像から東にも同様に保守的な設定となった。
0:56:02	明日
0:56:11	1 ページ飛びまして、
0:56:17	あと 4 ページに地震動評価手法示します。
0:56:20	今回の資料では内陸地殻内地震にプランジ審議会ペーパー自身を一つの資料にまとめておりますので、記載を整理しております。
0:56:29	そして火線が増幅の市に加えて増幅ありきの評価に関係するところになっております。これ冒頭説明したところの反映方法を記載しております。

0:56:42	プレート間地震以下予定耐震についても同様でございます。
0:56:47	続いて 45 ページから応答スペクトル法による評価について示します。こちらゾーンの人同じですのでかたしますが、45 ページが大統領の適用性検討を 40 ページが代取以外のの距離減衰式の適用性検討の資料を再掲しております。
0:57:07	それぞれの適用性検討のまとめが 47 ページで上段が剂等
0:57:13	下段が
0:57:16	上段のナイトウの検討結果でMariner適用範囲内でバツが適用範囲外と判断したものです。そして適用範囲外で判断したものについては、下段のづらいトリガーにフリース式の検討結果を示しております。
0:57:32	増幅の人モデルが同じですので、こちらできる性能マルバツ模造紙と全く同じになっております。
0:57:40	48 ページには一緒に示した応答スペクトル法による評価への増幅の範囲について、こちら自動内陸地殻内地震に示したものを示しております。
0:57:49	増幅の範囲に用いる応答スペクトル比については 49 ページに示しております。
0:57:56	49 ページの関係のモデルの応答スペクトル比の算出の詳細は補足説明資料①-40 ページからを参照ください。
0:58:05	10 ページには 8 すべての震源モデルの応答スペクトル法による評価結果を示しております。こちらモデルごとの評価結果については、補足説明資料①の 44 ページからを参照ください。
0:58:19	続いて 51 ページから断層モデル法による評価について示します。
0:58:24	まず 51 ページは評価に用いる一次元地下構造モデルです。
0:58:29	52 ページは、断層モデルを用いた手法でこちら増幅なしと同じとなっております。
0:58:35	詳細な要素地震などをにつきましては、補足説明資料①-51 ページからを参照ください。
0:58:43	53 ページには断層モデル法による評価をよる評価での増幅の反映方法の再起動しております。
0:58:51	54 ページ以降には評価結果として、54 から 58 ページに増幅代わりの各震源モデルの加速度時刻歴は
0:59:01	一体処理まして、59 ページには、すべての震源モデルの応答スペクトルの重ね書き、
0:59:08	60 ページにはオートスペクトル法等を断層モデル法の評価結果のだけを示しております。

0:59:15	速度時刻歴学会派遣や、各震源モデルのスペクトル各震源モデルごとのスペクトルについては、補足説明資料の①については掲載しております。
0:59:26	この後説明するプレート間地震、海洋プレート内地震についても同様となっております。
0:59:34	61 ページからですが、断層傾斜角の不確かさ戻りにつきまして 800 に回答 841 回の会合でのコメントへ御前崎海脚成分の断層体の断層傾斜角の不確かさを考慮震源モデルの増幅なしあるについて、
0:59:50	アスペリティメッキが 32%程度と少し大きいことから、いろんなためレシピにあるアスペリティ面積 22%、平均応力降下の 3.12 がPASCALで設定した震源モデルについて確認することというコメントを踏まえて、
1:00:05	増幅ありの場合についてもコメントにある方法で震源モデルを設定し、映像管理採用している震源モデルとの答弁でグリーン関数法による地震動評価結果の比較を行っております。
1:00:18	ここでアスペリティの形状のを検討用を 62 ページに示します。
1:00:24	841 回の会合ではぞみなしのモデルのアスペリティの形状について、Asperity の形状概ね当方となるように設定したケースAとアスペリティの敷地へアスペリティを敷地側に寄せて設定したケースDを設定して、検討対象としました。
1:00:43	ここではこれ登壇し、ケースAとケースBを対象として増加割モデルのアスペリティの形状について検討し、
1:00:51	こちらは増幅の人と同様にケースDを採用することとしております。
1:00:58	63 ページにはは地震動レベルの比較を示します。
1:01:02	こちらのグラフからは黒で示して採用している震源モデルとわかる示すアスペリティ面積 22%を平均応力降下の 3.1MPaで設定した震源モデルの地震動レベルは、同程度となっていることを確認しました。
1:01:17	以上が増幅ありの内陸地殻内地震の評価の設定となります。
1:01:25	1 ページ飛んで続いて 65 ページから増幅代わりのプレート間地震の評価についての設計でとなります。
1:01:32	66 ページには全体像再掲しております。10 に説明をしています。
1:01:38	まず 67 ページは増加の検討用地震の選定です。
1:01:43	次に示す通り増幅なしの検討用地震の震源断層が族方向にすることを踏まえて続出して同じ内閣府 2012 の最大クラスの地震を増加の検討しても設計をしております。
1:01:57	ほかの地震として相模トラフの地震がありますが、敷地からの距離が遠いことから、図に示す位置関係にある南海トラフの地震で代表します。
1:02:08	68 ページからは増幅管理の基本震源モデルの設定についてです。

1:02:13	断層位置は認識論的な不確かさ強震動成績の一番は基本的には認識論的な不確かさに分類されることを踏まえて、増幅管理の基本震源モデルは増見直しの基本震源モデルと同じとし、図に示す通り、遺族方向位置に強震動生成域の一部に
1:02:30	当行考慮して評価を行います。
1:02:34	1 ページ飛んで 70、70 ページには増幅管理の基本震源モデルの設定方針と震源断層パラメータを示します。こちら増幅なしと同じです。
1:02:47	71 ページから増代わりの基本震源モデルの投稿する強震動生成域の小断層の設定について示します。
1:02:57	遺族会の基本震源モデルについて増幅あ増幅方向にある強震動生成域が小断層にこうです、ます。
1:03:04	具体的にはは増幅方向による強震動生成域の小断層は約 10km手法の確証断層の一部のみが族方向に該当するものでありますが、保守的な評価となるよう相談小断層全体に同行することにより、
1:03:20	どう考慮する小断層の範囲が統報氷広い設定いたします。
1:03:26	この補訂こん設定の方針について、次のページに示しております。
1:03:31	今の 12 ページローカルの基本震源モデルについて映像考慮する強震動生成域の小断層の範囲は下の図にオレンジで示して増幅方向の範囲より広く保守的な設定となっております。
1:03:45	Hピストンで 74 ページからが不確かさを考慮した新モデルについてです。
1:03:52	映像から評価における不確かさの考慮の考え方は基本的に増ふやしても同じなので、増ふやしたときに、同じ構成内容で 74 ページにフロー。
1:04:04	7576 ページにモデル図、
1:04:07	77 ページに不確かさの重畳の考え方、78 ページに重畳について表形式で示します。
1:04:14	い 79 ページには不確かさの考慮のまとめを表形式で示しております。
1:04:21	80 ページから増幅ありの強震動生成域の位置の不確かさを考慮した震源モデルについて示します。
1:04:28	a項省略して、いつの不確かさモデルといいます。
1:04:33	発行機ですが、このモデルでは、強震動生成域の位置が偶発的な不確かさの要素も有していることを踏まえて、より保守的な評価となるよう、敷地近傍含めて増幅方向に動向を効率の強震動生成域の位置、震源モデルを新たに設定します。
1:04:50	具体的には、敷地における地震動の増幅特性の分析の結果を踏まえつつ、敷地近傍が地震動に与える影響が大きいということを重視して保守的な評価となるよう、敷地近傍含めて増幅方向に強震動生成期である東海政務J①と、

1:05:08	それからはSMGA②を集約することにより、増幅方向を包絡するよう強震動生成域を設定し、そのすべての小断層に造構コールスキップするとともに、
1:05:20	敷地近傍において、増厚する小断層の範囲が族方向より広い設定とします。
1:05:27	なお後程説明するように、念のため増幅なしの評価において設定した敷地の東寄りの敷地直下に改正目地①を配置した位置の不確かさモデルの直下ケース②に対して、
1:05:42	そういう方向にあるトーカイ生命①の一部とおそれが合わせミツイ②、
1:05:48	増幅を考慮した場合については、フィリピン関数を用いた評価結果の比較を行って増幅ありの位置の不確かさモデルで代表できているということを確認しております。
1:06:01	81 ページにはモデル図を示しております。
1:06:04	1 ページ飛んでこのように設定した増幅ありの位置の不確かさモデルの地震動レベルについては 83 ページに示す通りある示す増幅ある位置の不確かさ戻りの振動レベルが青で示す増幅ありの基本震源モデルに比べて大きくなっております。
1:06:23	以降では匹 41 回の会合同様に、このような地震動に支配的な強震動生成域の分析を行っています。
1:06:32	うん。
1:06:34	84 ページに示す通り、分析としてエネ示す増加の位置の不確かさ戻りを代表にそれがわいと増加域の各業種の成績により挙手。
1:06:47	頻度評価をそれぞれ行って、震源モデル全体の評価結果の比較を行っております。
1:06:56	85 ページから破壊開始点ごとに応答スペクトルと加速度時刻 0 派遣の比較を順に示しており、詳細は割愛しますが、結論としては全部なしの場合と同じで、敷地に最も近い敷地直下の東海SMGA①だ敷地における地震。
1:07:15	上のが最も大きく、
1:07:18	震源モデル全体の評価結果に対し、支配的となっております。
1:07:23	飛んで 92 ページ。
1:07:37	先ほど説明した通り増幅ありの位置の不確かさモデルでは族方向包絡するように来て欲しいと生成域を設定しています。
1:07:46	二つ目の丸ですが、過去に設計することで増幅を最大限考慮できることとなりますが、一方で増幅をする強震動生成域が敷地からやや離れた位置に配置されることとなります。
1:07:59	そこでa項では先ほど説明した通り、右下の図に示すようなパラスタケースを設定してトピックに関する法による評価結果の比較を行って設定した増加の位置の不確かさモデルの代表性中も出ます。

1:08:17	まずは 9394 ページに敷地と投信の成績の位置関係を示しております。
1:08:23	93 ページは増加において不確かさモデルで 94 ページはパラスタケースの場合となります。
1:08:30	いずれも敷地からの距離が最も近い位置に支配的な東海SMGA①が位置しているモデルとなっております。
1:08:41	95 ページからは地震動評価結果のをお示しております。
1:08:45	95 ページには両モデルの時刻歴発見の比較です。
1:08:50	96 ページには、応答スペクトルの比較を示します。
1:08:55	この比較によりますと、周期 0.5 秒以下の増加が見られる周期体において赤で示す位置の不確かさまでの地震動レベルは幾らで示すパラスタケースと同程度か、それ以上となっております。
1:09:09	以上より、映像区間の位置の不確かさまでの代表性を確認しております。
1:09:15	こちらは前回のヒアリングでは平均応答スペクトルを示しておりましたが、その後を実施した 841 回の会合の資料で時刻歴だけを示して追加して示しております、一つ同様に、今回の資料も時刻歴欠けを追加しておりますので、
1:09:31	いるスペクトルも大台評価のほうに変更しております。
1:09:37	基準の 7 ページにまとめを示します。
1:09:40	一番上の箱書きは 80 ページの再掲でこのモデルの設計方針を示します。
1:09:46	このように設定したものについてはパラスタケースの比較からその代表性を確認した上で二つ目の箱に記載しております。
1:09:54	一番下鏡に行きまして、同区間においての不確かさを考慮した震源モデルについては、他SMGAの位置を敷地直下に配置し、その一部の小断層に新規の検知の増厚するケースも考えられますが、
1:10:08	そういうようなケースに対し倒壊生命①及びE駿河湾AMG②を敷地近傍も含めていただく方向に集約した震源モデルのケースは、
1:10:18	地震動レベルが同程度かそれ以上であり、増幅を考慮する地震動評価において、同モデルを考慮していることはできてあると考えられるとまとめております。
1:10:30	ミツイで 98 ページからは強震動生成域の位置の不確かさの組み合わせへの考慮についての説明資料です。
1:10:38	遺族として同様に、強震動生成域の位置が薬学的な不確かさとしてきて、よそも有することを、地震動レベルが大きいことから、その他の不確かさの組み合わせを行うめをしております。
1:10:52	99 ページは、一つ目の組み合わせである強震動生成傾向値と地震規模の不確かさの組み合わせを考慮した震源モデルのモデル図を示しております。

1:11:03	100 ページからは、二つ目の組み合わせである強震動生成域の位置と分岐断層の強震動励起特性に係る不確かさの組み合わせの考慮についてです。
1:11:13	まずここで用いる分岐断層の代表断層の設定検定と、震源モデルの設定、設定について説明します。
1:11:21	1 番目、とりあえず関心伴う分岐断層について、増幅の代表断層としては、御前崎海脚東部の断層対牧ノ原何両断層選定しており、この震源断層が増幅方向に位置していることを踏まえ、増幅カルテもこの分岐断層代表断層として選定します。
1:11:40	そして、その震源モデルですが、断層位置については認識論的な不確かさに分類されるため、映像化した震源モデルと同じとし、アスペリティの位置については 9 月的な不確かさに分類するため、どう変わるの震源モデルでは、敷地近傍含めて増幅方向にかけてアスペリティが位置するよう、
1:12:00	アスペリティの形状を変更して設定します。
1:12:03	これが分岐断層を全体像となります。
1:12:08	101 ページには、今の説明を
1:12:11	この形式で示します。
1:12:14	102 ページからは増幅ある分岐断層の詳細説明です。
1:12:19	102 ページに文献破損代表断層については先ほど説明した通りです。
1:12:25	103 ページでは、この選定の代表性を確認しております。
1:12:30	右下の位置での示すように、遺族方向にはタニに売却等へのSenoみたいと いうのを断層対が位置しております。
1:12:39	これについて応答スペクトルの位置がより下であり、儘田海脚東部の断層対 完了断層が 4 倍程度大きくなっています。
1:12:49	ジェネリックな地震のときと同様に、応答スペクトルが十分大きいことを、アス ペリティは敷地に近い位置に設定しており、どういう方向にするアスペリティ増 考慮することから、増加の評価においてもこの分岐断層東部の断層対応でご ざいます β 代表できると考えております。
1:13:08	104 ページには増加の天気断層の震源モデルの設定について示します。先ほ ど設定連帯像としての出方します。
1:13:17	105 ページには分岐移動からの分岐断層の震源モデルの設定方針と震源断 層パラメータについて示しており、こちら増幅なしと同じです。
1:13:30	106 ページには、どう管理の分岐断層の震源モデルにおける増厚するアス ペリティの設置について示します。
1:13:39	100 わけですが、臓器の人全基断層の敷地近傍

1:13:43	1 近傍を含めて増加方向にアスペリティが一様に新たに設定した増幅ありの分岐断層の震源モデルについて増幅は増加方向にあるアスペリティの小断層に考慮します。
1:13:57	具体的には、敷地における地震動の増幅特性の分析の結果を踏まえつつ、敷地近傍は、地震動に与える影響が大きいことを重視し、
1:14:08	保守的な評価となるよう、敷地から北東方向にあるアスペリティ小断層のすべてに対し、地震動検知の増厚することにより、
1:14:17	敷地近傍も含めて増幅方向にあるアスペリティで小断層に上考慮するとともに、敷地近傍においてどう考慮する小断層の範囲は画像方向より広い設定とします。
1:14:31	このアスペリティの小断層の設定の補正は後程説明いたします。
1:14:37	107 ページには設定した増加の電気がそのモデルを用いた荷合わせケースの震源モデルを図を示します。
1:14:49	それで 108 ページから三つ目の組み合わせである強震動生成域の位置とえり活断層への破壊伝播に係る不確かさの組み合わせを考慮した震源モデルの補助率を 50 に示します。
1:15:02	遺族会の内陸地殻内地震の検討シーンとしては、御前崎海脚整備の断層による地震を選定しておりますので、ここでは内陸活断層として御前崎海脚西縁の断層体を用いた震源モデルは増幅なしと同様に、
1:15:17	不確かさを考慮した震源モデルのものを打ちます。
1:15:21	ジェネリック活断層の連動ケースの各震源モデルを 108 ページから 111 ページに示します。
1:15:31	飛びまして、112 ページから 117 ページに各モデルの各モデルの増幅を考慮すると震動生成域アスペリティの小断層の設定の保守性を遵守します。
1:15:45	詳細割愛しますが、いずれのモデルの増幅を考慮する小断層の範囲はオレンジで示し増幅方向より広く保守的な設定となっております。
1:15:58	ページ飛びまして、118 ページに地震動評価手法示します。
1:16:03	火線箇所が増幅の反映方法で内陸地殻内地震のときと同様となっております。
1:16:11	119 ページから応答スペクトル法の評価方針を準備示します。
1:16:16	どんな人基本的に同じなので詳細は割愛しますが、119 ページ上に応じて示せいいモデルは代取権利で評価を行い、4 年度だけでなく 3 連動に言動端部を評価して一番レベルが大きいものを採用します。
1:16:33	三つ目の丸ですが、増加において不確かさモデルは増幅が人同様の考え方で、

1:16:39	当海域に位置すると会社NG①を保守的な設定評価となるよう、はい敷地近傍含めて、それが前画像方向に集約して設定しており、
1:16:51	三つの不確かさを考慮した。
1:16:53	震源モデルではイシカワ域プラス倒壊既往最少の評価対象領域いたします。
1:17:00	120 ページ上にして二つ太字で示した連動係数については、応答スペクトル法は行わず、断層モデル法で評価するとします。
1:17:11	121 ページにはオートスペクトルで評価を行うモデルのモデルす 122 ページは適用性系統のまとめ
1:17:19	123 ページには、応答スペクトルをへのを増幅の反映でモデルをプレート間地震もそうします。
1:17:28	属の範囲に用いる応答スペクトルの比は 124 ページに示すものを用います。
1:17:34	こちら各モデルの応答スペクトル比の算出の詳細については補足説明資料①－115 ページから紹介さい。
1:17:43	125 ページは強震動生成域の応力降下量の不確かさの影響の範囲について増幅なしの資料をです。
1:17:52	126 ページには、応答スペクトルによる評価結果の評価結果を示しております。
1:18:00	続いて 127 ページから像を断層モデル法による評価について説明します。
1:18:07	127 ページは一次元地下構造モデルです。
1:18:10	128 ページは断層モデルを用いた手法で遺族の人同じです。
1:18:17	要素地震等の詳細については補足説明資料の①127 ページから 3kmください。
1:18:24	119 ページは断層モデルをへのを増幅の反映方法の再掲で、
1:18:30	130 ページは連動ケースの評価方法での話と同じです。
1:18:36	131 ページから以降には評価結果として時刻歴が系統音スペクトルをそれぞれの重ね書きを示しております。
1:18:50	1 ページ飛びまして 137 ページをお願いいたします。
1:19:03	137 ページからは増幅ありの海洋プレート内地震の評価についての資料になります。
1:19:09	それからやっぱり正しいについては増幅ありでもありについても、132 回の会合で説明ですので、
1:19:16	データが施設横並びに見るときに追加した資料について設置をしています。
1:19:22	右上に過去資料の番号の記載がないページが追加したページとなります。
1:19:28	約 38 ページは全体像を再掲です。

1:19:32	139 ページは検討地震の選定で増幅なしの検討地震を増幅方向に移動させて豆腐管理の検討地震として選定しております。
1:19:42	90 ページは基本震源モデルの設定で結果が得ます。
1:19:50	1 ページ飛んで 142 ページはどうかの基本震源モデルの設定方針と震源断層パラメータで増幅なしと同じです。
1:20:02	143 ページは増加の基本震源モデルの増幅を考慮する強震動生成域の小断層の設定について。
1:20:10	資料となっております。
1:20:13	先ほどの説明した通り、設定した基本震源モデルについては増幅は増幅方向にある強震動生成域の小断層に考慮します。
1:20:23	具体的には、二つ目の丸ですが、敷地における地震動の増幅特性の分析の結果を踏まえて、敷地近傍が地震動への影響大きいっていうことを
1:20:35	そして保守的な評価となるよう近傍を含めて族方向にある強震動生成した小断層のすべてに対し、どう考慮するとともに、敷地近傍において映像考慮する小断層の範囲が増方向より酷い設定とします。
1:20:52	への臓器の基本震源モデルと増加の基本震源モデルの層厚考慮しない場合の地震動評価は同程度であることを右下のグラフの通りで示しておりまして、こちらは約 32 回の会合で説明です。
1:21:08	このように設定した関連の基本震源モデルの増加を考慮する強震動生成小断層については 144 ページに示す通り、保守的な設定となっております。
1:21:21	1 ページ飛んで 146 ページから 148 ページは、どう変わるの基本震源モデルのアスペリティ面積のパラスタ再掲となっております。こちら再精査させていただきます。
1:21:33	149 ページから 152 ページは不確かさモデルの設定の再掲となっております。それさせていただきます。
1:21:42	飛んで 154 ページをお願いいたします。
1:21:49	約 54 ページは、不確かさモデルの一覧でこちら基本震源モデルのモデルと同様に敷地近傍含めて増幅方向にかけて強振動生成域が一様にモデルを設定しています。
1:22:03	約 50556 ページに示す通り、これらのモデルの小断層の範囲相当高齢者を断層の範囲は保守的な設定となっております。
1:22:16	1 ページ飛んで 158 ページは、地震動評価式でこれも想像です。
1:22:24	159 ページは大統領の適用性検討概要で、こちらは内陸地殻内新法の同じものを追加しております。
1:22:31	160 ページには短周期レベルの不確かさを考慮震源モデル評価に用いる片岡アマノ 2006 の適用性検討についての資料となっております。こちら追加

	なっておりますが、考え方につきましては、内陸地殻内地震の説明等となっております。
1:22:51	161 ページには、地震規模の設定についての資料で 453 回の会合で説明した通り、婦人会ペースで発生した地震等の整理から設定する部分の資料を追加しております。
1:23:05	162 ページには各距離減衰式の適用性検討の結果をまとめを示しております。
1:23:13	163 ページには一緒に示した応答スペクトル法への増幅の反映の再掲で、ここで用いる応答スペクトル比 564 ページに示します。
1:23:24	詳細につきましては補足説明資料①-192 ページからとなります。
1:23:30	165 ページは応答スペクトル法の結果を示しております。
1:23:37	1 ページ飛んで 167 ページからが断層モデル法の説明となります。
1:23:42	167 ページが一次元地下構造モデル 168 ページは断層モデルを用いたし、手法の詳細で、
1:23:51	こちら基本的にはプレート間地震と同じとなっております要素地震等の設計詳細については、波速説明資料①-206 ページからを参照ください。
1:24:02	169 ページは造の増を断層モデルへの送付を反映の再掲で 170 ページから順番に断層モデル法の評価結果を示しております。
1:24:17	実際 576 ページからまとめとなります。
1:24:21	177 ページには、すべての地震タイプの応答スペクトルによる評価結果の重ね書き、
1:24:28	78 ページには、断層モデル法による評価結果の重ね書きをします。
1:24:34	本資料についての説明は以上になります。
1:24:38	補足説明資料の詳細な説明はいたしませんで紹介だけさせていただきたくします。
1:24:44	また補足説明資料①につきましては、1 ページに示す通り、いわゆる地殻内地震にプレート間地震か予定と地震の地震動の顕著そ考慮する。
1:24:56	評価の詳細の資料となっております震源モデルや震源パラメータ-新統評価手法地震動評価結果をすべて掲載したのとなっております。
1:25:09	また補足説明資料あるにつきましては、これまで審議いただいた各タイプの臓器の市の地震動評価の概要となっております、
1:25:20	こちら各自身体と横並びにて地震動評価手法の記載の整理をしないと、あと、また共選系との資料を追加したらいいけど、規定化をしております。資料の説明は以上になります。
1:25:39	うん。

1:25:39	はい、規制庁つないで御説明ありがとうございました。
1:26:06	規制庁スガヤですけれども、その辺ちょっと
1:26:09	基本的なことで大変申し訳ないんですけど、ちょっと1点だけ確認使わせていただきたいんですけども、本編資料で、最初のほうに、
1:26:21	9 ページ。
1:26:28	リファレンスが
1:26:31	観測点のNo.7 っていうところをリファレンスにして議論を進めていかれているんですけど、このNo.7 にしてるっていうか、どういった油圧すいません。
1:26:43	はい、中部電力の成田でございます。ナンバー7 というのは、4号機、今回申請させていただいて、4号機の前面にある地震観測点で地中の40万という地中観測点もある観測点でございますので、このNo.7 を基準にさせていただいているということでございます。
1:27:04	規制庁世界ですよ。はい、ありがとうございます。
1:27:45	土地のサグチです。私からも幾つか確認させてください。まず14ページなんですけど。
1:27:53	これまあ以前からこれ出されている部分ではあるんですけども、応答スペクトル法ですね、こちらのほうで反映させる場合に、
1:28:03	多分、先行サイトだと、こういう方法じゃなくて、具体的に言うと、柏崎なんですけど。
1:28:12	実際に観測をされたものを使ってあとは迎え等による応答スペクトルですね、これとも比較をして、
1:28:25	その比率を掛けてやる的なことをしているんですけど。
1:28:31	御社はこういう方法を用いた
1:28:36	理由というのか、ちょっとそれを教えてください。
1:28:42	はい。
1:28:42	頂部なることになるとですね、こちらはさっき先行サイトは基本的には増幅している地震と検討地震というものを基本的にイコールだと思いますので、それに対応されたかと思えます。ただ我々の場合はですね今回のプレート間地震、スラブ内地震、内陸地震と、それぞれタイプが三つありますし、
1:29:02	それで断層モデルに応じてですね当然増幅係数というのも変わってきますので、その辺りを適切に評価するという意味で、断層モデル法でまずは地震動評価をすると、上側でその増幅なしと造構ありの応答スペクトルの補正係数を求めればですね、より適切に
1:29:19	断層モデルの形状に応じた増幅特性を反映できると考えましてこの方法とっております。

1:29:28	はい、ありがとうございます。多分その辺りのところって、多分これまでも説明なくて、どこにも多分書かれてないと思うんですよ。で、確かに、例えばその 49 ページとか、
1:29:43	もっと後ろ。
1:29:45	100
1:29:48	シャープ、
1:29:50	はい。
1:29:52	64 ページとか、当然それぞれ地震のタイプによって増幅の係数が変わってくるというところは確認もちろん我々してるんですけど、そういうところを含めて、こういう方法でやりますよと、それはなぜならばこういうことなんですよということは多分、
1:30:11	どこかに説明を入れていただくなりしたほうがいいかなとは思いますが。
1:30:21	電力のイワセです。その点に関しては、少し足りない記載があるかもしれませんが、11 ページを見ていただきますと、
1:30:34	もともと増幅方向が限定的だということもありまして、やはり全体に応答スペクトルをかけるわけにいかない。
1:30:47	その断層モデル法を重視するという意味においては、この最初の丸のところに対応しております。この、この流れの考え方の延長上で音スペクトルのほうも当然そのままできないだろうと我々は考えてるんですが、ちょっと作者が指摘されるように、
1:31:05	その辺わかりにくいわかりにくい。
1:31:08	その辺は補足させていただければ。
1:31:14	はいサグチです。ちょっとそこはよろしくお願いします。ちなみにこの 11 ページなんですけど、当然御社はあくまでもこれは地盤増幅特性の
1:31:25	影響によって増幅されると。
1:31:28	ということなので、基本的には多少違いはあるかもしれないんですけど、これが地震によって、
1:31:38	変わるものなのか。
1:31:41	内陸地殻内でも、当プレート間で、この地盤の
1:31:46	時地盤増幅特性が変わるということを実は申し上げてるんですよ。
1:31:53	それはそれが大きく変わるか小さくしてBDBAのところ、まあってところあるかもしれないんですけど、だから、その辺りで本当に
1:32:03	地盤トークという観点から考えたときに、地震によってそれぞれ本当に違ってあるものなのかと思うのかということですね、阿蘇それもちょっと含めてです

	ね、少し記載をしてこういう考え方でこういう方法を用いるということはちゃんと書いていただきたいと思います。
1:32:27	ちょっと整理して説明させてもらいたいと思っていますけれども、基本的には低速度層という増幅要因があって、それを地震は通ってくると、増幅するということに関しては当然地下構造の話ですので、内陸だろうが、プレート間だろうがスラブ内だろう変わりません。
1:32:45	ただ、損益する地震動のモデルがSMGAがどれぐらい増幅させるかという部分によってですね。結果的な造構係数が変わってきてしまうので、その辺りを反映するために今回断層モデル崩壊しております。走時ちょっと今口頭で説明させていただいた内容もですね追記すれば、今のサグチさんのお答えになると思います。
1:33:05	しっかり検討させて追記させてもらいたいと思います。
1:33:10	はい、じゃあすみませんそこら辺よろしく願いいたします。あと、これ前回のプレート間地震のところで、コメントしたところですね、一番
1:33:25	60
1:33:26	1 ページ目以降ですかね、このところで、今回
1:33:31	同区ありのケースもちょっと検討されたと。
1:33:35	とこなんですけど、これ私、前言ったかどうか。ごめんなさいってなかったら申し訳ないんですけど、プレート間地震のところでもそうなんですけど、こういったもので、同程度である 63 ページにそのまとめというか結論というのが書いてあるんですけど。
1:33:51	同程度であることを確認したっていう、こういう場合は基本的にハケとスペクトルがまずセットでお願いしたいと。
1:34:00	いうところと、漠然と教えていただきたいのは、結局も同程度になっているんですけど、圧壊でどうされるんですかも同程度なんで、もうこれはこれ以降ではもう検討しませんということなのか、それとも同程度になっているので、同じように検討しますということで、ちょっとそこを教えていただきたいと思います。
1:34:23	水道失礼いたしましたまずはけるの件に関しては追加させていただいて中部電力ナリタでございますすみません依存性の派遣について追加させていただきます。そして地震動レベルが同程度となっていると確かに言葉足らずで今までの評価で代表できると我々思っておりますので、
1:34:40	その辺の結論の部分を追加させていただきたいと思います。
1:34:47	はいサグチです。そこはよろしく願いいたします。
1:34:51	とりあえず、一旦は以上です。

1:34:59	規制庁タニです。ちょっとあの確認させてください 163 ページさっきあの応答スペクトル法の話が出たと思うんですけどこれひょっとしたら前も聞いているのかもしれないんですけど、これって断層モデル法の
1:35:15	断層モデルを用いた手法による地震動評価の費用を出してるんだと。
1:35:21	ということなのこれNSEWとかって、この方向とかをどう考えてるんです。
1:35:30	的にはですねこれを通すと中部電力 70 すいません何度すいません。何だっけな、応答スペクトル法ですので、基本的にはその方向という概念がございませんので、JNES的にラベルの平均という形で
1:35:47	ケースを出して、愛してます。
1:35:51	すいません私勘違いしてます応答スペクトルの比なんですね、音スペクトル同士の
1:35:57	なんですね。
1:35:59	説明をちょっとややこしいんですけども、応答スペクトル法の地震動評価に反映する上で、断層モデルという手法を介して、応答スペクトルを求めて、それも比率を応答スペクトル比と言っております。
1:36:16	はい。私が勘違いしてました。
1:36:21	はい。
1:36:24	はい。
1:36:29	によって結果も
1:36:31	そうですね、断層モデルってミツイ努力あります。
1:36:36	すべて中部電力ナリタでございます先ほどのタニさんの御指摘をNSD殿平均的記載がなかったなので、その点ちょっと追記させていただきたいと思います。
1:36:47	はい、お願いします。
1:37:01	まず、
1:37:33	そう。
1:37:40	何か。
1:37:43	。
1:37:44	すいません下げてですけども、
1:37:45	もう 1 回ちょっと確認だけ 96 ページで、
1:37:54	これは 95 ページ 96 ページでこれはKakehi音スペクトルセットになってるんですけど、ちょっと考え方は結構代表性を確認したというところで、これあくまでも言っているのは周期 0.5 秒以下の部分だけであって、
1:38:10	むしろ周期 5 秒から 0.5 秒以上だと。
1:38:14	° 程度かもしれないんですけど、むしろ頭がちょっと大きくなっているものもあるんですけど、この

1:38:20	周期体ですね、要は堅調な増幅が認められる。
1:38:26	周期体に限って今
1:38:31	多分、
1:38:32	同程度かそれ以上になってるっていう言い方で代表性を確認されたとなってるんですけど、でも地震等全体で考えたら全部全体を見て、
1:38:42	かなという気もするんですけど、ちょっとこの考え方は共用していただけますか。
1:38:49	中部電力の成田でございます。今のルートパラスタケースと言っているものはもともと報告なしの地震動評価で、直下ケース②として提出させていただいてるケースで、
1:39:04	そのケースの後を当然それは設計に反映します。それは増幅ありのほうも当然反映しますので、今ご指摘いただいたようにですね、1秒以上については、今回のパラスタケースとも有意に多少大きいんですが、これは増幅なしのほうで、地震の評価としても反映しているものでございます。
1:39:21	ここで論点になっているのは0.5秒以下の短周期としての増幅、それがまだ移行性としてどうかって話ですので、今回も派遣も示して95ページ目発見の最大加速度とか見ていただければですね、赤よりもこのほうが優位に大きいということをやっぱりいただけるかと思っておりますので、短周期としての論点と。
1:39:41	とらえていただければと、繰り返しになりますが1秒以上については増と同じのほうで反映してございますので、問題ないかと思っております。
1:39:49	はいサグチですが、よくわかりました。ありがとうございます。あとすいません細かいことなんですけど、ちょっと気になったのが補足のほうの
1:39:59	何ページかな、10ページ目以降で、
1:40:08	9ページ、9ページ、ページ目からの今回の冷凍御前崎海脚の
1:40:15	弊社から不確かさんですけど。
1:40:18	10ページと、
1:40:21	13ページを見比べると、これ分かる人に分かると思うんですけど、短周期レベルの貸し方組織が
1:40:30	違うんですよ。
1:40:32	加えて言うと、
1:40:38	10、
1:40:40	7ページで比較してるんですけど、このときには短周期レベル企業の82人1番目のすぐ後に*って

1:40:52	一番下のところにこの式を用いて算出しましたと書いてあるんですけど、これとさっきの例えば 10 ページのパラメータ評定算出違うじゃないかというところで計算すればわかりますけど、答えは全く答えてる数値は一緒なんですけど。
1:41:07	ていうところなんですけど、ちょっとそこは何か補足いただけますか。
1:41:19	中部電力の石川です。
1:41:27	まず 10 ページのほうに記載しております短周期レベルの差は肅々と算出につきましては、檀さんのほうをM0 から求めた経験式
1:41:40	で算出をしておりますので鳥栖Pに基づいて円形クラック式でやる場合というのは、ここでのM0 から求める案周期レベルと、あと、17 ページの下に書いてある理論式といいますか、これで計算式で段数
1:41:57	3 スキルは基本的には一緒になるものになります。
1:42:02	いえ、今回
1:42:05	パラスタをやった平均応力降下量 20 円。
1:42:10	アスペリティ面積 20%で平均応力が 3.1Mpaにしたものというのは、それスピード円形クラック式ではないので、とM0 から短周期レベルを求めるというのはちょっとおかしい、それから少し絶えずれるものになります。
1:42:25	なので、ネットの 17 ページであつたりとか、それから 17 ページに書いてある棚周期レベルのスキームについては、理論式から求めるようにしてまして、当こちらの表 1 を比較しているものですから同じ指標で同じ計算式で、
1:42:43	書いておいたほうがいだろうということで採用しているものについても各々主たる書いてある理論式で算出したということで書いてあります。
1:42:52	要は作業したものについてはどちらでやってもらってということになります。
1:42:57	はいサグチです。ありがとうございます。当然私は何かそれはわかってるんですけど、そういうことをむしろこの補足の 14 ページで、なんでこの場合はこの式を使うんだよということで、例えばですね、補足的にちょっと入れていただくなり、
1:43:14	その 13 ページとかの評価表のところもそうなんですけど、定例したほうがいいのか新設かなとは思いますが。
1:43:25	電力のイシカワです。
1:43:27	今の件につきましては 17 ページ等に追記をしたいと思います。
1:43:32	うん。
1:43:36	はい、佐口ですすいませんあの最後本当に
1:43:40	非常に細かいことで恐縮なんですけど、チェックちらっと見て、164 ページと開口でそのままそれも前のあるんですけど、一番下のところの下限モデル云々で、補足説明資料①-192 から参照と書いてあるんですけど。

1:43:57	多分これページ数変わってるんじゃないかなと最新の資料ではと思うんで、ちょっとそこは確認をしておいてください。
1:44:07	中部電力のインカワですねと、資料全体確認させていただきます。申し訳ありませんでした。
1:44:14	私は、
1:44:24	規制庁ナイトウですけれども、えっとね資料全体確認してもらってという話なので、ちょっと気になったところが母体等あるとね、適応的な範囲をハッチングしてるやつが各ページによってハッチングは、
1:44:41	違っているので、多分どれかが間違ってると思うので多分 159 ページが間違ってると思うので、その辺、もう一度、そういったところも含めてよくチェックしてもらっていいですか。
1:44:54	中部電力の石川です。そうしました。すいません、こちらの
1:44:58	パワーポイントの総全う側の会社が分割した上で変わっておりまして、その作業の過程でこのようになってしましまして、確認をさせていただきます。
1:45:11	はい。よろしくお願ひします。つまらない誤記で資料も 1 回出してねってということがあると大変なので、すいませんがよくチェックをして、次の資料をつくっていただければと思います。
1:45:41	サグチですすいません本当に最後に細かいことなんですけど、
1:45:47	常識だと言われてしまうかもしれないんですけど、これまでいろいろプレート間地震のところでもいろんな分析をされてプレート間地震の場合は、一番近い SMGA が行くんだよ、敷地の地震動が効くんだよっていうのが示されているんですけど。
1:46:05	内陸地殻内とか、それはイワマイですけど、
1:46:12	捨離 T の部分が敷地に一番効くんだよという多分ところだと思うんですけど、そういう説明が多分ないままに、最初のほうの反映方法のところも設定では、
1:46:27	小断層、いわゆる
1:46:30	N30° E から N70° に入ってくるような小断層に関しては、
1:46:37	この増幅を考慮した係数を掛けますと言っておきながら、それが 14 ページ準備じゃないか、13 ページとかに言っておきながら、
1:46:52	そのすぐ後ぐらいからもういきなり、
1:46:55	アスペリティなり SMGA のみにしか、これはかけませんと。
1:47:01	言ってるんですけど、そのつなぎという回答の部分が今受けているように、
1:47:06	資料ではですね。
1:47:08	思うんですけど、何かそんなのでありましたっけ。

1:47:27	その他中部電力のナリタてございます 11 ページ目とか 13 ページ目とかには、おっしゃり通り小断層ということですから書いてますので、SMGAってちょっとキーワードが抜けております。ただ、
1:47:41	我々の認識としてはですね小断層イコールこれはSMGAと思ってちょっと書いてた部分がちょっとあるんですけども、あといきなり 14 ページ目に、確かにおっしゃるように 1000MJというところがあるのでちょっと何かしらちよつとつながりをですね、入れられればなと思います。基本的には背景領域とSMGAであればですね、パンフレット。
1:48:01	全く違う生常識かなと思いますので、その具体的な提示まで必要ないかなと思いますけれども、SMGAで 2 っていうキーワードですね、しっかりとどこかに入れ込みたいと思いますのでちょっと考えたいと思います。
1:48:16	多分、一般的な方がもし何か見られて、なんでこの背景領域しろとかやらなくていいのっていう、多分そういう素朴な疑問が生まれないかなっていうところが私の思いですんで、ちょっとそこはSMGAとか、アスペリティ
1:48:34	ていうちょっと触れフレーズを出しながらちよつと説明していただきたいと思います。
1:49:12	今、
1:49:16	はい。サグチですけども、ジャスコ白地っていう話で、やっぱり今日幾つか私確認させていただきましたスガヤさんて、
1:49:28	そんなに思うならないんですけど、幾つか追加だったら修正みたいなところが多分あると思いますので、またちよつと再度ヒアリングを簡単にさせていただければと思いますけれども、そこでまた準備ができ次第ご連絡いただければと思います。
1:49:45	そちらからよろしいでしょうか。何かあれば、
1:49:49	はい、中部電力アマノですあ教育ご指摘いただいたことを統合資料全体チェックしつつ、あんまりちよつと言葉が説明が足りてない所達していくんですけど、正直作業としてはそう多くないので 1 週間もあれば、
1:50:07	引き上がってしまうんですけど、でき次第すぐヒアリングを申し込むという形でよろしいでしょうかね。
1:50:17	はい、もちろん空き状況とかはありますけれども、基本的にはでき次第、申し込んでいただければと思いますんで、よろしく願います。
1:50:27	はい、承知いたしました。
1:50:38	はい、では特にもう、何も無いようでしたらこれで終了させていただきたいと思います。ありがとうございました。
1:50:45	ありがとうございました。